文協図書館に７９４冊寄贈＝娘と同居、亡夫の蔵書を

寄贈された７９４冊を前に記念撮影

　7月１５日、ブラジル日本文化福祉協会（文協、石川レナト会長）の図書館に、個人から日本語の本７９４冊が寄贈され、譲渡式が行われた。

　本を寄贈したのは大山澄子さん（８４歳、神奈川県）。本は２年前に亡くなった夫の学さん（まなぶ、行年８７歳、鹿児島県）が所蔵していた本で、「本を読まないと眠れない」程の読書家だったという。

　本は小説から政治など幅広く、近年出版された本も多い。澄子さんは娘の作田エレーナ高子さん（二世、５９歳）と同居することになり、寄贈先として文協を高子さんが探してくれたという。

　譲渡式には、山下リジア副会長や永江久恵ネイジ図書委員会委員長、事務局の中島エドアルド剛事務局長も出席した。

二人にそれぞれ蘭の鉢植えをプレゼントするところ

「来るのは初めて」という澄子さんに中島事務局長は挨拶で「図書館に所蔵されている６万冊は、今の文協ビルが出来る以前から寄贈を受けたもの」と説明。ほとんどが日本語書籍で、現在協会が購入しているのは雑誌のみだという。

　続いて山下副会長は「文化センターとして様々な本が有ると言う事は非常に嬉しいです。最初めの利用者は日系人だけでしたが、最近は研究目的の伯人も訪れる事があります」と寄付を感謝する。

　永江図書委員長は「是非多くの人に図書館がある事を知ってもらいたい」と語り、寄贈のお礼として二人に蘭の鉢植えがプレゼントされ

□□